

令和 7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794600045		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グルーホーム太寿		
サービス種類	認知症高齢者施設 グルーホーム太寿		
所在地	大阪府柏原市太平寺1丁目4番30号		
自己評価作成日	令和8年1月20日	評価結果市町村受理日	令和8年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援します」をグループホームの理念にしています。個人ケアに力を入れその人らしい生活が出来るように努めています。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2794600045-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和8年2月6日		

石畳の街並みが広がる静かな住宅地にある1ユニットのホームです。特養を併設した3階建ての地域密着型高齢者施設の1階にあり、街に溶け込んでいます。「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりのある心で支援します」というホーム理念の下、利用者は職員と一緒に家事を行い、無理なく体を動かしながら思い思いの生活を楽しんでいます。キッチンと一体化したリビングではトントンと野菜を刻む音や出汁の香りが漂い、職員と並んでいそいそと料理作りをする利用者の姿が見られます。旬の食材や地場野菜を使った彩り豊かな料理はホームの自慢です。また、利用者は日常的に屋上庭園を散歩して季節を感じ、近くのスーパーに買い物に出かけています。ボランティアの訪問も多く秋祭りには敷地内の広場に神輿がやって来るなど地域交流が盛んです。「この良いところは心と心の介護ができること。10年後が楽しみ」。ベテラン職員のそんな何気ない言葉にホームの魅力が垣間見えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時の後に経営理念、ケア方針GHの理念を唱えて日々の介護に活かしている	「周りの幸せを願う所に自らの幸せもある」という法人の経営理念のほか、「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりのある心で支援しましょう」というホームの理念をつくり、管理者と職員は毎日の申し送り時に唱和しています。「理念を唱和すると体にスイッチが入る」と話す職員がいます。経営理念はパンフレットに掲載し、重要説明書等と一緒に専用の木製台に並べて玄関先に掲示しています。	スタッフルームの入口に掲示しているホームの理念も、玄関先の木製台に置かれてはいかかでしょうか。ホームの姿勢を家族や来訪者に周知するきっかけになります。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りの御神輿の休憩に施設によって来るので写真を撮り楽しむ、近くのスーパーやケーキ屋など買い物に行く機会を作っています。地域のボランティアさんに来ていただき、ボランティアレクに参加しています。	併設の特別養護老人ホーム(特養)と合わせた「地域密着型高齢者施設」として地域に親しまれています。地域の祭りには敷地内の広場が神輿の休憩場所になり、利用者も目の前で一緒に祭りの臨場感を味わいます。地域のボランティアによる訪問が月5～10回あり、近隣住民から畑で育てた野菜が届くこともあります。日々の食材も地域のスーパーや商店で購入しており、利用者は職員同伴で買い物に出かけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天気が良い日はスーパーや公園、外食などしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回グループホームでの出来事やイベント、事故報告内容など報告し地域の方や市役所の方の意見を聞いて今後の運営の参考にしています。	2カ月毎に地域交流スペースで、併設の特養や市内にある系列のグループホームと一緒に運営推進会議を開催しています。会議は平日に実施し、各事業所の代表のほか家族、住民代表、市介護福祉課、地域包括、社会福祉協議会の職員が参加して利用状況や行事報告だけでなくヒヤリハット、事故報告も詳細に行い、活発な意見交換を行っています。昨年度は運営推進会議のメンバーで外部評価を実施しました。	家族だけでなく利用者や成年後見人にも運営推進会議の参加を呼びかけてみるのはいかかでしょうか。また、欠席した家族等には会議録を送付することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス会議、運営委員会にも市役所から担当者に参加しており事業所の事、困り事など相談して協力関係を築いている。	運営推進会議を通じて管理者が市介護福祉課と連携しています。また、柏原市地域密着サービス連絡会にケアマネジャーが参加し、同業他施設の担当者や情報や意見を交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束などの適正化について」の法人の研修の資料を回覧して勉強する機会を作っています。	年3回、併設の特養と合同開催する身体拘束廃止委員会に管理者が委員として参加し、身体拘束をしないケアについて会議や研修を行っています。会議や研修した内容は毎月のミーティングで職員共有し、研修資料を回覧しています。現在、身体拘束はありません。センサーマットの利用についても毎月使用状況をチェックしています。また、ホームでは身体拘束や虐待につながらないよう職員のメンタルケアやストレスフリーな職場環境の整備に力を入れています。	身体拘束をしないケアを徹底するため研修資料の回覧と合わせてミニテストやチェックリストを活用してはいかかでしょうか。内容の理解が深まります。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を考える資料を回覧して勉強の機会を作っています。普段の介護にも意識しながら対応している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用されている方がいます。弁護士さんと電話連絡、報告などしています。また、面会にも来てくださり、直接話したり、連携をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は家族様と本人に分かりやすく説明し、不安や疑問などには都度納得いくまで話をさせていただいています。入居してからも、慣れるまでは家族様と密に様子や、不安を聞いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とはコミュニケーションを優先するように徹底しており、日々の生活会話の中で不安や疑問など耳を傾ける解決するようにしています。また、家族様にもその都度様子を伝え家族の想いを聞き取るように心がけています。様子や暮らしぶりが分かるように、インスタグラムや太寿新聞などで写真などを貼付しています。	館内ホールに赤いポスト型の意見箱を設置していますが、特に意見は寄せられていません。管理者や職員は利用者や家族がフランクに話ができるよう、面会時に日常の様子を積極的に伝えるなど会話のきっかけづくりに努めています。また、インスタグラムやブログでホームの日常を積極的に発信するほか、個々の家族にメールやLINEで写真や動画を送っています。こうした発信には家族から「安心できる」との声が多く寄せられています。管理者はしばらく中断している家族会を再開したいと考えています。	家族会の中で家族等の意見や要望を集め、発言者を特定しない「家族会の声」として提出してもらってはいかかでしょうか。家族会の再開に期待がかかります。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時には日常の困った事など聞き出勤のスタッフの意見を聞くようにしています。月一回のミーティングの機会でも提案して話し合いをしています。	職員は毎朝の申し送りや毎月のミーティング意見をしっかり発言し、職員の「やってみたい」が歓迎される職場です。管理者は職員一人ひとりの特技、苦手、困り事な等を把握し、職員とのコミュニケーションを深めてオープンでストレスを溜めない職場環境を目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとは会話を大切にして、生活状態やプライベートなども出来るだけ把握させていただいています。仕事内容も、苦手な事や得意な事、したいことなども聞き、片寄のないように仕事内容を振り分けています。シフト作成はスタッフの希望を先に聞き優遇しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入所時にオリエンテーションをして法人の理念や利用者さんとの関わりのマナーなど研修に参加していただいています。法人内の研修なども積極的に参加していただき、ミーティングで発表など行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会の会議に参加して勉強会をしたり情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的になじみの関係を築ける様に話を傾聴して困っている事にきずき本人さんの安心されるような生活になるよう努力する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の面会時には在宅当時の様子などお聞きして施設にたいする要望、不安な事を聞き出来る限り叶えられるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される段階で管理者、ケアマネと自宅に訪問、自宅での生活を伺い何が一番困っていたかを見極め援助するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に職員は入所者さんの中に入り一緒に昔の話をしたり歌を唄い楽しんだりして馴染みの関係を築き、信頼してもらえるように努力する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる家族様が気持ち良くいつでも来て頂ける環境作りをして利用者様の生活を見て頂き職員と一緒に支えて行く様に努力しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ外出などは、自宅近くやお店など馴染みの場所へ行き、懐かしまれています。電話したいという方にはかけてもらっています。携帯を持参の方も数名います。	地域に住んでいた利用者が多く、外出や買い物を通じて人や場とのつながりが継続できるよう支援しています。通院や買い物のドライブの途中に利用者のかつての住まいの前を通ることがしばしばあります。家族や友人の面会時は寛げる和風テイストの居室で過ごしています。愛読の新聞や乳酸飲料の宅配を継続する利用者もいます。携帯電話を持つ人もおり、かけたい人には電話の支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合いそうな利用者同士を隣の席にして一緒にレクを楽しみ、テレビを見て話題を共有出来る関係に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他施設に行かれた方を機会があれば訪問したときある。相談などがあれば支援したい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で静かに過ごしたい方には無理にロビーに誘導はしないようにして本人の任している。座っているのが苦痛な方にはソファで休める環境も作っている。	日頃から「食べたいもの」を聞きメニュー作りに活かしています。各種体操や脳トレ、ぬり絵や折り紙等さまざまなレクリエーションを実施していますが、参加は自由です。利用者は日中も居室とリビングを思いのままに行き来しています。管理者は以前行っていた「個別ケア」(月1回利用者の「やってみたいこと」を聞き出して実現する取り組み)を再開させたいと考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員一人ひとり意識して人格を尊重した言葉がけをして対応している。またお互いに気がつけば注意しあっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に職員間で情報の交換をして申し送り時に連携して利用者一人ひとりの現状の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回のミーティングの場で入居さま一人一人に対するケアについて話し合い意見を出し合い家族様の面会時には意見を聞いて介護計画を作成している。	利用者個々の有する力を引き出し、本人の思いや家族の意向が反映された介護計画です。計画は半年に1度、または変化があった際に見直しています。職員は計画に沿ったケアを続ける中で月1回、利用者の状態を話し合い、計画作成担当者がモニタリングしています。見直した計画は本人や家族等に説明し同意をもらっています。説明時には家族だけでなく可能な限り本人の署名をもらい、文字の変化等も心身状態を把握する手がかかりにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は申し送りやミーティングなどで情報交換して気づきや工夫、改善策など話し合い大きな変化があれば支援経過や連携ノートなどに記入している。介護計画の見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に情報等や本人の要望等聞き、個々のケアに努め柔軟な姿勢で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地域にこちらから溶け込んでいけるよう外出などしています。(買い物や、外食など)また、地域のお祭りや共有フロアにてボランティアレクに参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理を実施。状態を把握しながら、変化があれば看護師、家族と相談し、かかりつけ医師に連絡し診察してもらっています。日常生活の中で体調などの記録も行っています。	入居前からの主治医を継続できる一方、協力医療機関の内科医の週3回来訪時には、日常的な健康不安を気軽に相談できる環境にあります。また併設する特養から、平日は毎日看護師が訪れ、職員と共に健康状態を確認するほか、夜間のオンコール体制により24時間安心できる支援体制を構築しています。歯科の訪問診療も居室で受けることが可能で、歯科衛生士等の指導に基づいた口腔ケアを職員が日々の生活の中で実践しています。通院は、家族同伴を基本としますが、緊急時や家族の状況に応じて職員が付き添うなど、家族の負担軽減と利用者の健康維持を最優先とした柔軟な対応をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化があれば、その都度報告しています。また、記録に残し、後からでも見れるようにしています。相談をし指示を受け家族様に報告して受診を受けてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、施設生活情報を病院へ提供。家族や病院の相談員とこまめに連絡を取り連携をしています。また、面会などケアマネジャーと行き、本人の様子や病院関係者と経過など情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所説明の時に事業所で出来る事は説明しています。重症化した利用者様に対しては、家族を含め医師、看護師、ケアマネ、介護職員らと相談しながらケアを実施しています。	入居契約時に、本人および家族に対し、緊急時の対応や延命治療の有無を含めた重度化への対応方針について、ホームで可能な範囲を説明し、書面で同意を得ています。状態の変化に応じて医師や看護師を交えた相談の場を設け、最新の意向確認を行っています。医療的措置が優先される場合には、併設の特養や医療機関への転居・転院を円滑に進められるよう支援しています。また、昨年よりターミナルケアの受け入れ体制を整備しました。現時点では実践の経験はないものの、看取りへの対応を「今後の重要課題」と捉え、職員の不安を解消するために研修の開催や経験談を共有する機会を検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網に沿って実施しています。フロアの隅に吸引器などを設置しています。医療に関する内容については看護師の指導のもと実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は火災、水害、地震などの訓練をしている。地域との協力体制が築ける様に努力したい	定期的な防災訓練を実施し、その様子を写真入りの報告書に記録することで、課題の抽出と振り返りを行っています。風水害や火災を想定した詳細なマニュアルには、緊急時の連絡網・指揮系統、具体的な避難経路が明示されており、夜間等に少人数の職員で対応する場合でも迷わず行動できるよう分かりやすい形式でファイリングし、周知徹底しています。水害リスクを想定し、備蓄品を上階にある併設の特養に保管し、また、貯水タンクを設置することで非常時の水を確保して、継続してケアを提供できる体制を整えています。	非常食は、災害時の体調不良を防ぐためにも食べ慣れておくことが重要です。備蓄品の更新時期に合わせ、訓練の一環と防災イベントを兼ねた試食会を企画するなど、利用者が非常食に親しむ工夫を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとり意識して人格を尊重した言葉かけをして対応している。またお互いに気がつけば注意しあっている。	言葉かけが本人や周囲に与える影響を認識し、慎重な対応に努めています。排泄や入浴の誘導時も「ちょっとよろしいですか？」と配慮ある言葉選びを徹底するなど、入居者の尊厳を守る姿勢が定着しています。親しみやすさとプライバシー保護の境界線に悩む場面もありますが、それを課題として捉え、都度最適解を模索し続ける姿勢を大事にしています。画一的な対応ではなく、個別の状況に応じた丁寧な関わりを実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意見を尊重し、できる範囲で出来る限りの支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせてながら、その日の体調などを理解して希望に沿った支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など整容の支援をして入浴時の服も一緒に相談しながら選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ旬の食材を提供しています。好き嫌いやアレルギーにも気を付けながら提供してしています。また、誕生日の時はその人が食べたいものをリクエストで聞き、提供してしています。食事下ごしらえは出来るだけ利用者様にも手伝って頂いています。	旬の食材を近隣から調達し、職員が毎日手作り提供しています。専任職員や職員交代制による「家庭の味」は利用者を飽きさせず、美味しいと評判です。オープンキッチンに立つ利用者の姿も日常的で、「手伝いたい時だけ手伝う」といった、自由で緩やかな時間が流れています。献立は利用者の好みを反映し、出汁の香りや季節の装飾を添えるなど食卓には五感に響く工夫がなされています。また、テイクアウトの利用や、屋上・裏庭でのバーベキューなど、日常に変化を取り入れた食の楽しみも積極的に提供しています。手作りの温かみと季節感が、利用者の生活に豊かな彩りを与えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な食事をもつと、本人や家族に食事の量など聞き体重や持病なども含め相談し提供しています。季節に応じた食材や、利用者様に食べたいものをリクエストするなどもしています。水分は毎回水分量を記録して、しっかり飲まれているのか、排便の状態なども見て水分を進めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、歯磨き、義歯洗浄、うがい等個々に合ったケアを実施しています。自歯、義歯の不具合や口腔トラブル時は本人と家族に相談し、往診で診てもらおうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、時間を見て声掛けし誘導しています。自身でトイレへ行かれる方は、自由にトイレへ行かれています。個々のトイレ誘導を行っています。	利用者の多くが日中布パンツを使用し、個々の居室の温水洗浄便座で自立に近い排泄を継続しています。介助が必要な場合も、職員が排泄パターンを把握し、さりげない動作で誘導することで尊厳を損なわない支援に努めています。また、食前の体操を習慣化し、旬の食材を活かした食事内容にも配慮することで、自然な排泄を促進したり、必要に応じて緩下剤を活用し、利用者の自己申告も尊重しながら、心身の健康維持を細やかに支えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日食事前に体操をしています。また、献立にも食物繊維を取り入れています。KOT-3日目の方には下剤を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には本人の意向や要望を確認後に入浴しています。夏は週に3日冬は週2回入浴施行しています。拒否が続く場合は清拭などして清潔保持しています。時間は曜日は決まって居ません。	清潔保持を重視しつつ、夏場は回数を増やすなど個々の意向に沿った柔軟な入浴支援を行っています。浴室には昇降式リフトを備え、座位が保てる方は皆、安全に肩まで湯に浸かることが可能です。リフト導入で職員の身体負担が軽減した分、1対1の対話が深まり、利用者の精神的な満足度も高まっています。退院後の安静期や重度化した場合は同じフロアにある特養の特殊浴槽の利用も可能です。季節湯を取り入れたり、入浴剤を選べる「お風呂の日」など、五感で楽しむ工夫も充実しています。シャンプー等の持ち込みも自由で、室温管理によるヒートショック対策など、安全と心身の潤いの両面に配慮したケアを実践しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々によって生活習慣や身体機能が違うので本人と家族の意見を聞き、入居前の生活リズムを崩さないようにしています。また、都度観察をして、状態に応じて本人と相談して安眠や休憩出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを置いているので、いつでも何を服用しているのか、副作用など確認しています。また、臨時処方の際は連絡ノートに記載して職員間で周知徹底しています。また、薬の残量など少なくなれば家族様に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	契約時に生活歴や得意なことを聞き、継続出来るように支援しています。また、新しいこともチャレンジして頂き、反応を見て楽しければ継続してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるように、天気が良い日などは屋上に出るようにしています。屋上散歩や、ドライブ、買い物、おやつ外出など定期的に行っています。個人で銀行や買い物に行きたいと希望があれば、時間を調整し個別外出もしています。	食材の買い出しに同行したり、個人の買い物に職員と出かけた時には自身で支払いするなど、社会参加の機会が多くあります。居室から直接出られる裏庭では、洗濯物干しや散歩が日常的に行われ、利用者の自律的な生活を支えています。屋上からは季節と共に移ろう山容や、慣れ親しんだ街並みや自宅を眺めることができ、地域との心理的なつながりの維持に役立っています。年賀状の投函に出かけたり、また国分神社への初詣では、自ら賽銭を納めるなど、季節ごとの慣習に根ざした外出も大事にし、地域社会の一員としての暮らしが尊重されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口現金預かり、日用品や嗜好品の購入をさせていただいています。買い物をする時は自身で自身で選んでいただいています。また、小銭を所持されている方もおり、家族が承知しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望された時は援助しながら電話をかけたりお正月の年賀状を書く支援もしています。こまめに連絡をしたい方には個々で携帯を持参され、連絡を取り合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内のキッチンも開放的な作りになっているため、入居者様と調理をしています。玄関には季節の花を活けています。	自然光が差し込む明るいフロアには、組み換え自由なテーブルを配置し、利用者の要望や活動内容に合わせて柔軟にレイアウトを変更しています。また適所に椅子や机を備え、個々が思い思いの場所でくつろげる環境を整えています。装飾は季節の花や手作りのクラフトを過度にならないように添えることで、落ち着きのある空間を演出しています。キッチンと一体型のフロアには調理の音や匂いが自然に届き、家庭的な雰囲気を高めています。壁面に飾った利用者の笑顔の写真は、日々の活動を振り返るきっかけとなり、安心感を高める一助となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーを守るように自由に引き戸を閉めて、居室で過ごされる人やロビーにソファで他入居者さんと談笑やテレビを観て自由に過ごされています。また、共有フロアを利用して家族様と談笑されることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には在宅時に使っていた家財、仏壇、家族様の写真など飾って本人が居心地良く過ごせる環境作りをしています。	全室にトイレ、洗面台、電動ベッド、エアコンを完備し、内障子を設えた和風テイストの落ち着いた居室です。愛着のある家具や調度品、仏壇・位牌などの持ち込みを推奨し、入居前の生活習慣を尊重した「自宅と変わらない暮らし」の継続に努めています。また、上着や帽子を視界に入る場所に掛けるなどの工夫により、利用者が外出への意欲を自然に持てるよう配慮しています。機能的な設備と個人の生活史の尊重を融合することで、深い安心感を生む居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレ、洗面台が設置しております。センサーライトの為、安心安全に移動してもらえます。		